

Ⅲ 活動記録

1 展覧会

- ・出品リストについては、他館所蔵家作品のみ詳細を掲載した。
- ・所蔵先、及び講師の所属は開催当時のもの。

特別展 「清方えがく、華やぐ舞台 —芝居絵を中心に—」

大の芝居好きだった清方は、その画業をとおして歌舞伎や新派に取材した作品を多く残した。華やかな衣裳や踊り、役者の表情など、一瞬の美しさをとらえた作品からは、舞台の見どころを熟知する芝居好きならではの視点がうかがえる。

明治のはじめに芝居好きの両親のもとに生まれ、新富町や木挽町など劇場が軒を連ねる芝居町で幼少期を過ごした清方。後に挿絵画家となり、演芸雑誌へ挿絵やスケッチなどを寄せ、歌舞伎の合評に参加することもあった。歌舞伎座の近くに住んでいたころは、芝居の感激と興奮の熱が冷めないうちに家へ戻り、挿絵の版下を描いたという。清方にとり、芝居は最も楽しめる趣味であり、かつ魅力的な絵の題材であった。

本特別展では、「道成寺」や「野崎村」など、清方が好んだ演目に取材した芝居絵を、演芸雑誌に寄せた挿絵などとともに紹介した。



会期 令和6年4月19日(金)～5月22日(水)

(開館日数:31日)

総入館者数 1,778人(一日平均:57人)

関連事業

市民講座【開催期間】4月23日(火)～27日(土)

- 23日(火)今西彩子「特別展「清方えがく、華やぐ舞台」の見どころ紹介」
- 24日(水)鍋木祐子「清方が訪れた、描いた“神奈川”」
- 25日(木)今西彩子「特別展「清方と二人の弟子」の見どころ紹介」
- 26日(金)篠原 聡「美人画の諸相」
- 27日(土)小林美香「清方の芝居絵について」

国際博物館の日展示解説

【開催日】5月18日(土)

日本画ワークショップ「水干絵具を使って、日本画を描いてみよう！」

【開催日】5月18日(土)

「鎌倉文化ゾーン 小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】令和6年4月27日(土)～令和7年3月31日(月)

関連記事

「特別展 清方えがく、華やぐ舞台 —芝居絵を中心に」(旅うらら 鎌倉湘南ガイド MAP No.59)

他 3件

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
天の網島の小春	明治 35 年	絹本着色・軸	83.8×25.9	個人蔵
鏡獅子	昭和 9 年	絹本着色・額	127.5×41.7	木原文庫蔵
鷺娘	不詳	絹本着色・軸	—	同上
野崎村	昭和 13 年	絹本着色・軸(双幅)	(各)118.3×33.4	同上
野崎村	大正 3 年	絹本着色・額	—	独立行政法人日本芸術文化振興会(国立劇場)蔵

【所蔵品】

「布晒し」「寺子屋画帖」「道成寺」「道行浮峙鷗」「梅蘭芳 天女散華」「カルメン」「笠の曲(娘道成寺)」「崔承喜 二」「早見の藤太」「女役者条八」「肉筆回覧誌『研究画林 卷之壹』の内 道成寺」「肉筆回覧誌『紫紅』の内 博多小女郎波枕」「濡衣」

七代目鳥居清忠作「梅王」※初公開

下絵 「野崎村」「筆捨松と広重」「下町に灯のとる頃」「金魚屋」「女役者条八」「夏ざしき」「先代萩」「おもかげ帖」「歌舞伎」下絵

スケッチ 「崔承喜」(3点)「酒井の太鼓」「伊勢音頭」「毛剃」「お祭佐七」「お七 文楽」「歌舞伎座 関の扉」「東劇のあたり」「芝居の客」「燕子花」「雪ノ下画室窓からの十五夜月」

『文芸倶楽部』口絵/附録	「小春」「よき事さく」「伽羅」「時代美人風俗雙六」
『歌舞伎』口絵	「おもかげ帖(其一) 酒井の太鼓」「おもかげ帖(其二) 伊勢音頭」「おもかげ帖(其三) 毛剃」「おもかげ帖(其四) お祭佐七」
『歌舞伎』挿絵	「助六の写生七種」「梅王の型七種」
『歌舞伎』表紙絵	「英獅子」「牡丹燈籠」「男之助の限取と日記の上下」
『演芸倶楽部』口絵	「茶屋の二階」「三ツ俣川の高尾」
『新演芸』口絵	「額の小さん(芝居十二ヶ月の中)」「濡衣(芝居十二ヶ月の中)」「箕輪心中の綾衣(芝居十二ヶ月の内)」「戻橋の小百合(芝居十二ヶ月の内)」「芝居美人畫 六「通夜物語」の丁山」「直侍へ出る千代春」
『俗曲評釈』口絵	「道成寺」(江戸唄)「助六」(河東)
『清方美人画譜』	「幕間」
『新小説』口絵	「大鳥毛」
『東京 築地川』	「鉄砲洲」「築地橋」
口絵	「金閣寺の雪姫」「藤娘」
模写	「喜多川歌麿」「當世踊子揃」の内 鷺娘、道成寺 「勝川春章・一筆斎文鳥画『絵本芝居扇』の内」
装丁	水谷乙次郎著『演芸風聞録』 市川三升著『九代目市川団十郎』 『歌舞伎座復興記念 歌舞伎』
資料	「清方意匠 鷺娘衣裳」「勝川春章・一筆斎文調画『絵本芝居扇』の内」 「鏑木清方舞台装置 梅ごよみ(『中央美術』)」「歌舞伎座 プログラム」 「鏑木清方舞台装置 たけくらべ(『演劇醉談』)」

特別展 「清方と二人の弟子 一門井^{きくすい}掬水・西田^{せいはい}青坡一」

清方のもとには、画風や人柄に惹かれて多くの入門希望者が集まり、一時、弟子は五十余人にもものぼった。中でも、門井掬水と西田青坡は、生涯を通じ清方のもっとも近くで師風を学んだ日本画家である。門井掬水(1886～1976)は茨城県に生まれ、小学生のときに、当時駆け出しの挿絵画家の清方に習い事として入門し、一番弟子となった。西田青坡(1895～1980)は東京深川に生まれ、伯父の西田伝助が清方の父・條野採掬と深い親交を結んだことが縁となり、12歳頃に入恩、住み込みで指導をうけた時期もあった。主に女性像を描いた師と同じ様に、掬水と青坡も美人画を手がけるが、次第に独自の画風を切り開き、掬水は女性たちの労働する姿、青坡は市井の生活の細やかな描写に才を発揮し、優品を残した。

本特別展では、清方作品のほかに掬水、青坡作品を紹介し、二人の弟子への美の伝承を辿った。



会期 令和6年5月25日(土)～6月30日(日)

(開館日数:31日)

総入館者数 2,105人(一日平均:68人)

関連事業

美術講演会「絵から見る明治・大正・昭和のおしゃれ」

【講師】中川春香氏(弥生美術館 学芸員)

【開催日】6月4日(火)

「手話付き展示解説」

【開催日】6月9日(日)

鎌倉市川喜多映画記念館との連携事業「紫陽花の咲く記念館を巡る展示解説ツアー」

【開催日】6月14日(金)、19日(水)、26日(水)

日本画ワークショップ「日本画材を使って、団扇に絵を描こう！」

【開催日】6月23日(日)

「鎌倉文化ゾーン 小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】令和6年4月27日(土)～令和7年3月31日(月)

関連記事

「特別展 清方と二人の弟子 一門井掬水・西田青坡一」(湘南える Vol.111)

「特別展 清方と二人の弟子 門井掬水 西田青坡」(子どもお出かけ情報サイト いこーよ)

他4件

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
鏑木清方「夏の女客」	昭和8年	絹本着色・軸	129.7×42.3	茨城県近代美術館蔵
鏑木清方「明鏡」	昭和6年	絹本着色・軸	125.5×36.0	同上
西田青坡「明治の遊び」	昭和初期	絹本着色・仮軸	183.8×105.5	個人蔵
西田青坡「秋」	大正期	紙本着色・仮軸	165.2×83.0	同上
西田青坡「針仕事」	昭和前期	紙本着色・仮軸	148.5×91.0	同上
西田青坡「たけくらべの美登利」	昭和期	絹本着色・軸	39.5×50.7	同上
西田青坡「子守」	大正初期	紙本着色・仮軸	152.0×81.6	同上
西田青坡「廻り燈籠」※	昭和前期	絹本着色・軸	86.3×25.8	同上
門井掬水「念仏講」	不詳	絹本着色・軸	214.0×171.0	茨城県近代美術館蔵
門井掬水「椿の島」	昭和16年頃	絹本着色・額	155.8×170.3	坂東郷土館ミュージズ (坂東市立資料館)蔵
門井掬水「黒胡蝶」	昭和前期	絹本着色・額	65.3×84.5	同上
門井掬水「初秋」	昭和前期	絹本着色・額	67.3×86.0	同上
門井掬水「女兒」※	昭和期	絹本着色・軸	125.0×41.0	個人蔵

※展示期間:「廻り燈籠」5/25～6/11、「女兒」6/12～6/30

【所蔵品】

鏑木清方「朝夕安居 夕」「襟おしろい」「手賀沼」「山百合」「註文帖」「みのりの秋 八幡宮の杜」※初公開
「夏の生活 夏島」

門井掬水「五星連珠のうち」

西田青坡「美人図」

下絵 「夏の女客」「讃春(左隻)(小下絵)」

スケッチ 「御殿場からの富士」「金沢 琵琶島」「讃春(左隻)のためのスケッチ」「柳の井戸」
「化粧する次女」「千木管とめっかち生姜」「麦わら蛇」「手賀沼」「大宮」

『文芸倶楽部』口絵 「白魚」「梅雨晴」「そぞろあるき」

『家庭雑誌』口絵 「菜園の紅玉」

『現代名作集』 「たけくらべ」口絵原画 「たけくらべ」口絵下絵

『今様夏の巻』 「五月雨」

作品絵葉書 西田青坡「にひ妻」「通学」「おほり端」「新川河岸」

門井掬水「祈り」「黒胡蝶」「傀儡子」「和具の海女」

写真 木村伊兵衛撮影「牛込矢来町の画室にて 次女を写す」

「昭和27年 清方夫妻金婚式の集い」

資料等 鏑木清方・小早川清ほか意匠器

門井掬水より西田青坡宛自筆絵葉書

鏑木清方・笠松紫浪ほかより西田青坡宛自筆絵葉書

鏑木清方・弟子たち 宝珠(2点)

企画展 「夏の日のきらめき —清方一家の夏休み—」

8月生まれの清方は四季ではことに夏を好み、作品やスケッチに夏の風物を多く描いた。中でも、子どもたちが夏休みになると滞在した横浜・金沢の別荘での日々は特別で、作品の着想を得ることにもつながった。金沢の情景に取材した作品に、長女と蓮田を散歩した早朝の風景を描いた《朝涼》や、家族や弟子らが山路の散策を楽しむ姿を描いた絵日記などがあり、これらの作品からは近い人々に向けた清方の温かな眼差しが感じられる。

本企画展では、横浜・金沢での夏のひと時を楽しむ清方一家の様子を、作品や絵日記、スケッチで紹介した。

会期 令和6年7月6日(土)～8月25日(日)

(開館日数:44日)

総入館者数 2,101人(一日平均:48人)



関連事業

「夏休み親子観賞」小・中学生及び同伴者観覧無料、小・中学生対象解説書配布

【開催期間】7月6日(土)～8月25日(日)

小・中学生及び同伴者観覧無料、小・中学生対象解説書配布

「子どもたちが美術館で楽しく過ごすための動画」上映

【開催期間】7月6日(土)～8月25日(日)

親子ワークショップ「親子で美術館へ行ってみよう！」【開催日】7月24日(水)

夏休み子ども参加プログラム・日本画「日本画材を使って、浴衣を描いてみよう！」

【開催日】7月25日(木)、26日(金)

夏休み子ども参加プログラム・石版画「石版画の仕組みを使って、水の生き物を刷ってみよう！」

【開催日】8月1日(木)、2日(金)

中高生向け展示解説「《朝涼》の鑑賞レポートを作ってみよう！」【開催日】8月20日(土)

「鎌倉文化ゾーン 小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】令和6年4月27日(土)～令和7年3月31日(月)

関連記事

「夏の日のきらめき —清方一家の夏休み—」(7月2日 朝日新聞 夕刊)

「今月の美術館 鎌倉市鎌木清方記念美術館 これからの展覧会」(エンディショップ 文化生活)

他5件

出品作品

「朝涼」「水汲」「砂浜少女」「清子四歳像」「夏の生活(第16～19図)」「金沢絵日記(第11～14図)」「春の立場茶屋(金沢春景)」「金沢春雨」「君ヶ寄漫筆(第5～7図)」「夏の柳井戸(柳乃井戸)」「ゆかた」「夏すかた」「風景(金沢・瀬戸)」「柳の下に涼む娘」「游心庵漫筆(第5図)」「金沢絵日記 五(第25図)」「絵日記(東京湾)(第3図)」「絵日記(里から町へ)(第1図)」

下絵 「金沢游心庵」「筆捨松」「蟹と童」
小下絵 「七夕(左隻)」
スケッチ 「向日葵」「花オクラ、朝顔、露草」「玉蜀黍」「白粉花」「朝涼のための蓮のスケッチ」
「朝涼構想スケッチ」「朝涼 スケッチ」「金沢の蛙と茄子」「金沢のあさり」
「金沢風景(入道雲)」「金沢風景(釜利谷)」「金沢風景(瀬戸)」「桔梗、トンボ」「桔梗」

『文芸倶楽部』口絵 「ゆふ暮」「涼風」「涼風(下絵)」
『新小説』口絵 「空虚」
『講談雑誌』口絵 「盆提灯(清方畫譜の七)」「恋の湊(清方畫譜の八)」「秋のおとずれ」
『婦人世界』口絵 「星多き夜」
『文芸界』口絵 「夕涼み」
『娯楽世界』口絵 「新藁」
『少女界』口絵 「海水浴」「玉づさ」
『少年界』口絵 「とんぼつり」
『お伽倶楽部』口絵 「しほかぜ」
『日本風物十二ヶ月』 「螢(七月)」
江見水蔭著作口絵 『海水浴』
大沢天仙著作口絵 『善道邪道』
柳川春葉著作口絵 『母の心』
渡辺霞亭著作口絵 『新渦巻 光子の巻』
資料等 「清方意匠 風呂敷 朝顔」
「うちわ 朝顔」「うちわ 美人・暖簾」「うちわ 美人・日傘」
「清方筆 扇子 朝顔」「清方筆 扇子 芙蓉」「清方意匠 扇子 凌霄花に蜻蛉」
「清方意匠 白木綿時に紫陽花模様浴衣」
「清方意匠 白木綿地桜に蝶鳥模様浴衣地」
「清方意匠 紺木綿地鷺草模様浴衣地」
「清方意匠 白地藍型染(陰陽) 柏葉模様浴衣地」
長谷川雪旦画『江戸名所図会』
歌川広重画『草筆画譜』
一立斎広重画『東海道風景図会』
游心庵 鍬木家掃部印半纏

企画展 「日本画ができるまで ―鏗木清方の制作風景―」

古くから画材、技法とも独自の発展をとげてきた日本画。その日本画の楽しみ方として、岩絵具や箔、墨など、絵具の素材がもつ美しさを味わうことがあり、また、完成品の表現に至るまでにつくられたスケッチや小下図、大下図などの画稿を鑑賞することがある。素材や画稿から伝わる、画家が凝らした創意工夫が、作品の新たな魅力を私たちにおしえてくれる。

本企画展では、清方作品の本画と下絵とを合わせて紹介し、清方の制作過程を辿りつつ、素材の美を含めた日本画の魅力を紹介した。

会期 令和6年8月31日(土)～10月22日(火)

(開館日数:45日)

総入館者数 2,451人(一日平均:54人)



関連事業

日本画ワークショップ「日本画材を使って扇面に絵を描いてみよう！」

【開催日】9月23日(月・祝)

日本画ワークショップ「日本画材を使って「月」の絵を描いてみよう！」

【開催日】10月19日(土)

「鏗木清方誕生日記念イベント」

【開催期間】8月31日(土)～9月6日(金)

先着10名様に図録1冊をプレゼント

※8/31(土)には展示解説も実施。

初心者向け展示解説「日本画鑑賞はじめの一步」

【開催日】9月16日(月・祝)

特別展示解説「芸術の秋！記念館をめぐる展示解説ツアー」(鎌倉市川喜多映画記念館との連携事業)

【開催日】10月8日(火)

「めぐってみよう」展覧会リレー 日本画ができるまで展(山口蓬春記念館との連携事業)

【開催期間】当館:8月31日(土)～10月22日(火)

山口蓬春記念館:11月30日(土)～令和7年1月26日(日)

「鎌倉文化ゾーン 小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】令和6年4月27日(土)～令和7年3月31日(月)

関連記事

「企画展 日本画ができるまで ―鏗木清方の制作風景―」(鎌倉観光公式ガイド)

「企画展 日本画ができるまで ～鏗木清方の制作風景」(広報かまくら 9月号)

他4件

出品作品

「小楠公弁の内侍を救う」「寒月」「朝夕安居 昼」「桜もみぢ」「春秋」※初公開 「狐狗狸」「慶喜恭順」

未定稿	「一葉」
下絵	「寒月」「朝夕安居 昼」「桜もみぢ」「桜もみぢ(小下絵)」「慶喜恭順」「曲亭馬琴」 「崔承喜(全身)」「崔承喜(上半身)」「初雁の御歌(小下絵)」「女役者条八」 「夏ざしき」
スケッチ	水野年方作「清方像写生」 「桜もみぢ」「桜もみぢのためのスケッチ(桜と鳶の紅葉)」「自画像」「朝顔」
模写	「喜多川歌麿「當世踊子揃」の内「三番叟」」 「勝川春章「婦女風俗十二ヶ月図」の内「七月 七夕図」」 「十返舎一九著・喜多川歌麿画「青樓繪抄年中行事 上の巻」の内「夜具舗初之圖」」 「西川祐信画「絵本朝日山」の内」「宮菌鸚鵡石」の内」 「西川祐信画「絵本玉かづら 上」の内」 「西川祐信画「絵本玉かづら 中」の内」 「西川祐信画「絵本玉かづら 下」の内」 「大蘇芳年画」「大蘇芳年画「絵本通俗三国志」の内」
谷崎潤一郎著作関連	「少年」挿絵下絵 3 点・未定稿 2 点
泉鏡花著	「日本橋」(『苦楽』名作物語下絵 2 点・未定稿 2 点) 『風流線』(口絵・口絵下絵・校合摺)
尾崎紅葉原著	『金色夜叉絵巻』(口絵・口絵下絵・校合摺)
菊池幽芳著	『夏子 愛と罪』(前編)(口絵・口絵下絵・校合摺)
柳川春葉著	『浮沈』(口絵・口絵下絵・校合摺)
『文芸倶楽部』口絵	「梅雨晴」(口絵・口絵下絵・校合摺)
『中央公論』挿絵原画	「自画像」
写真	木村伊兵衛撮影「牛込矢来町の画室にて」3 点 「牛込矢来町の庭にて」
資料等	「清方 印章帖」「清方 印」 「日本画材(銀箔・砂子用箔筒・箔用タタキ筆・箔箸・金泥)」 谷崎潤一郎著『少年』(限定版)

特別展 「あふれる詩情と浪漫^{ろまん} — 鏑木清方と中澤弘光 —

明治時代の後期、出版界が活況を呈すと、表紙絵や口絵、挿絵の需要も増え、多くの画家が仕事の一つとして絵を描いた。当時、挿絵画家として活躍していた清方は、浮世絵など日本の伝統絵画の研究を重ねつつ、西洋絵画にも触れ、日本画家として自分なりの表現を模索していた。

清方と同じ頃に挿絵を描き、油彩画を描いた画家に中澤弘光(1874～1964)がいる。清方は、中澤の詩情豊かな画風を「理想的写実派」と高く評価し、舞妓や奈良の風景を題材に彼が描いた小品を所蔵するほどであった。さらに、彼が手がけた文芸雑誌『新小説』の表紙絵について、誰も追従することのできない独自の境地と評した。

ともに東京に生まれ、清方より四歳年長の中澤。二人は、同じ頃に挿絵を描き、一人は日本画家、一人は洋画家として多くの作品を残した。二人の作品や挿絵、スケッチを並べると、日本の風景や女性の美への、共鳴するような視点と感覚を感じることができる。

本特別展では、同じ時代を生きた二人の画家が、画材や技法も違う日本画と西洋画の枠を超え、ともに愛しみ描いた日本の情趣を紹介した。



会期 令和6年10月26日(土)～12月1日(日)

(開館日数:31日)

総入館者数 1,971人(一日平均:64人)

関連事業

「北鎌倉・鎌倉ミュージアム散歩 —現代から鎌倉時代にタイムトラベル—

(北鎌倉葉祥明美術館・鎌倉歴史文化交流館との連携イベント)

【開催日】11月9日(土)

美術講演会「清方と洋画家たちの作品からひもとく 近代のよそおい」

【講師】山埜菜未氏(ポーラ美術館 学芸員)

【開催日】11月12日(火)

特別展示解説「芸術の秋！ 記念館を巡る展示解説ツアー」(鎌倉市川喜多映画記念館との連携事業)

【開催日】11月7日(木)、30日(土)

日本画制作実演(実演:日本画家 只野彩佳氏)

【開催日】11月16日(土)、17日(日)

「鎌倉文化ゾーン 小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】令和6年4月27日(土)～令和7年3月31日(月)

関連記事

「特別展 あふれる詩情と浪漫 —鏑木清方と中澤弘光—」(鎌倉トゥデイ)

「あふれる詩情と浪漫 —鏑木清方と中澤弘光」(11月1日 鎌倉朝日)

他3件

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
中澤弘光「少婦」	明治 33 年	キャンバス・油彩・額	88.0×68.4	東京藝術大学蔵
中澤弘光「舞妓」	明治 36 年	紙・水彩・パステル	28.5×22.5	同上
中澤弘光「針仕事」	明治 28 年	紙・水彩・額	22.5×17.8	個人蔵
中澤弘光「山の湯」	大正 2 年	キャンバス・油彩・額	76.1×48.9	同上
中澤弘光「京の春」	大正 15 年	キャンバス・油彩・額	60.5×72.5	同上
中澤弘光「舞妓」	不詳	キャンバス・油彩・額	52.0×40.5	同上
中澤弘光「芸妓(小力)」	大正 3 年	板・油彩・額	33.0×23.4	同上
中澤弘光「活花」	昭和 10 年頃	板・油彩・額	27.2×21.5	同上
中澤弘光「舞妓(手鏡を持つ)」	昭和 33 年	キャンバス・油彩・額	45.6×38.1	同上
田山花袋・中澤弘光著『温泉周遊 東の巻・西の巻』	大正 11 年	書籍		県立神奈川近代文学館蔵
中澤弘光『温泉周遊』挿絵原画	大正 11 年頃	紙・水彩		個人蔵
(伊香保・川原湯・会津東山温泉・阿蘇栃ノ木温泉・霧島山麓蓮太郎温泉 5 点)				
鏑木清方『新小説』表紙・口絵	明治 33～34 年	書籍		県立神奈川近代文学館蔵
(表紙:「振天府」「小春」「残月」 口絵:内田魯庵著「青理想」計 4 点)				
中澤弘光『新小説』表紙 (「湯女」「渡し船」2 点)	大正 3 年	書籍		同上
中澤弘光「月下の美人」(『東洋婦人画報』口絵)	明治 41 年	書籍		同上
中澤弘光「静けき朝」(『女学世界』口絵)	大正 7 年	書籍		同上
中澤弘光「お稽古」(『婦人世界』口絵)	明治 39 年	書籍		同上
長田幹彦・吉井勇・中澤弘光著『祇園画集 舞姿』	大正 5 年	書籍		同上
中澤弘光『祇園画集 舞姿』挿絵 4 点	大正 5 年	木版		個人蔵
中澤弘光『祇園画集 舞姿』挿絵原画 4 点	大正 5 年	紙・鉛筆		同上
中澤弘光「狩野川の鉄橋」スケッチ	明治 38 年頃	紙・水彩		同上
中澤弘光「八女」スケッチ	不詳	紙・水彩		同上
中澤弘光「横になる少女」スケッチ	不詳	紙・鉛筆		同上
鏑木清方 中澤弘光宛年賀状(5 点)				同上
片山攝三撮影 中澤弘光肖像写真	昭和 38 年	写真		同上

【所蔵品】

- 鏑木清方「虫の音」「落葉焚く」「孤児院」「暮れゆく沼」「舞妓」「秋宵」「大和路の或る家」「雑司ヶ谷会式」
「ゆあみ」「秋草」
- スケッチ 鏑木清方「少女横臥像」「箱根 湖尻」「水元 小合水口」「萩」
- 鏑木清方口絵 「九月の海(清方畫譜の九)」(『講談雑誌)、「こほろぎ」「こすもす」「夜長」(『文芸倶楽部)、「試験」 広津柳浪著「冬の夜語」(『新小説)、「茶屋の二階」(『演芸倶楽部)、「秋の雲」(『婦人画報)」
- 中澤弘光表紙 「吉野川六田の渡」「三階より」「塔影」(『新小説)」
- 『清方美人畫譜』 鏑木清方「春のいでゆ」「濱町河岸の秋」
- 中澤弘光画集『日本大観』
中澤弘光「春日社頭」「猿沢之池」「奈良公園」「奈良郊外より興福寺塔」「大和龍田川」
- 小杉天外著作口絵 鏑木清方『魔風戀風』中編口絵 中澤弘光『魔風戀風』後編口絵
- 挿絵 鏑木清方 尾崎紅葉原著『金色夜叉絵巻』挿絵
中澤弘光 徳富蘆花原著『不如帰画譜』挿絵 細川花紅著『藻塩草』挿絵

企画展 「清方一家のお正月 一明治・大正の年末年始」

江戸から明治へ時代が移ると、風習や風俗も時代にあわせ変容するが、清方が幼少期を過ごした東京の下町は、江戸の文化が色濃く残っていた。

すぐれた文筆家でもあった清方は、明治の東京の街並みや人々の暮らしを数々の随筆に書き残した。新春の風情に触れた随筆では、年賀状の意匠に思いを巡らせ、新春芝居や弟子たちとの新年会をたのしむ姿をうかがうことができる。

本企画展では、箆を敷いて鏡餅の準備をする様子や羽根つきに興じる様子など、江戸のかおり残る頃の年末年始の情景に取材した作品や口絵を、清方の文章と合わせて紹介した。また、清方作品を名押絵師・永井周山が意匠化した押絵羽子板「明治風俗十二ヶ月」も展示した。



会期 令和6年12月7日(土)～令和7年1月13日(月・祝)
(開館日数:28日)

総入館者数 1,575人(一日平均:56人)

関連事業

日本画ワークショップ「日本画材でかるたに絵を描いてみよう！」

【開催日】12月15日(日)

「新春初売り」「新春福引き」

【開催期間】初売り:1月4日(土)～1月8日(水)、福引き:1月4日(土)～1月10日(金)

来館者全員に景品が当たる福引きと、叢書図録と一筆箋の特別価格での販売を実施

「鎌倉文化ゾーン 小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】令和6年4月27日(土)～令和7年3月31日(月)

関連記事

「清方一家のお正月 ～明治・東京の年末年始～」(鎌倉逍遥 vol.61)

「清方一家のお正月 一明治・東京の年末年始」(鎌倉朝日 12月1日号)

他5件

出品作品

「ためさるゝ日(右幅)」「雪空」「僧房春蘭(牡丹の寺)」「歳旦」「風景(里)」「宝船」「白梅(昭和45年)」

「恵方詣」「白梅(短冊)」

榎本千花俊「羽根の禿」

山川秀峰「春駒」

下絵 「雪旦」「街頭風景」

スケッチ 「唐の芋」「雪ノ下のわびすけ」「蛇」「大川雪景色」「雪の松 矢来にて」「芸者」「イトヨリダイ」

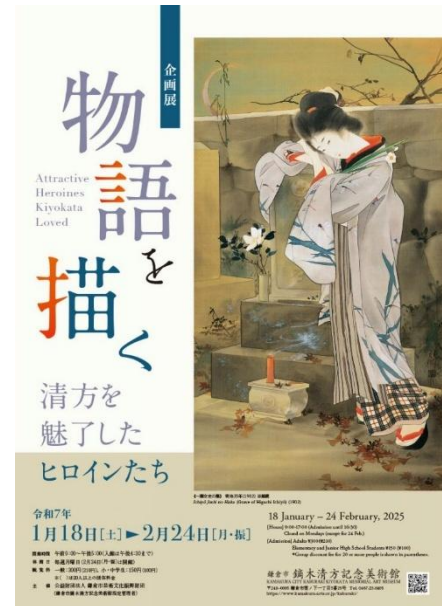
試筆 「童」「小槌」「雪兔」「宝珠」

『文芸倶楽部』口絵	「春を待つ」「餅むしろ」
『文芸界』口絵	「都大路」
『婦人世界』口絵	「元日の朝」「新夫人」「さくら色」
『婦人公論』口絵	「歌留多會の夜」
『婦人画報』口絵	「雪の兔」
『大正婦人』口絵	「初東風」
『婦人之友』表紙	第 32 卷第 1 号、第 32 卷 12 号、第 36 卷第 1 号
『講談雑誌』口絵	「初夢(清方畫譜の一)」「炬燵(清方畫譜の十二)」
『苦楽』表紙	「紅椿」「曇」「春を待つ」
『淑女畫報』口絵	「阿蘭陀船」「春の人」
『少女界』口絵	「初雪」「クリスマス」
『少年界』口絵	「クリスマス」
『少女倶楽部』表紙	「クリスマス」
渡辺霞亭著作口絵	『渦巻』(続編)
菊池幽芳著作口絵	『小ゆき』(後編)
岡鬼太郎著作口絵	『三筋の綾 花柳風俗』
その他口絵	「雪積む宵(名畫十二ヶ月その二)」「年始まわり」「楽しき贈り物」
『文芸倶楽部』附録	「時代美人風俗雙六」「新案雙六当世二筋道」 鱒崎英朋・鏑木清方合作新年大附録『松の内』
『少女界』附録	鏑木清方・富田秋香合作「少女修学旅行雙六」
『東京朝日新聞』附録	「風俗美人画(一)松の内」
風呂敷	「凧と梅」「扇面に松と飴や」「張子の虎と犬とキンカン」「扇面に藤と松」 「扇面に竹と梅」「松と藤」
ふくさ	「清方・筆 振り振り 大ふくさ」
資料等	永井周山作・押絵羽子板「明治風俗十二ヶ月」 吉田永光作・押絵羽子板「春の夜のうらみ」 清方意匠年賀状

企画展 「物語を描く 一清方を魅了したヒロインたち」

幼い頃から文学に親しんでいた清方は、生涯、樋口一葉や尾崎紅葉、泉鏡花の小説を愛読した。挿絵画家となった18歳の時に樋口一葉が夭逝し共に仕事はできなかったものの、尾崎紅葉、泉鏡花とは単行本や雑誌の仕事をとおして深く交流した。日本画へ専心してからも、清方は彼らの小説の世界観や登場人物を題材にたびたび作品を描き、中でも樋口一葉の『たけくらべ』の主人公・美登利を折に触れて描いた。

本企画展では、清方が自ら「制作の水上」と位置づけた、『たけくらべ』の美登利を描いた初期の代表作《一葉女史の墓》をはじめ、お宮と貫一の印象的な場面を表わした《金色夜叉の絵看板》や泉鏡花の幻想的な文学作品に取材した《註文帖》など、清方を魅了した物語のヒロインを描いた作品や口絵を中心に紹介した。



会期 令和7年1月18日(土)～2月24日(月・振)

(開館日数:33日)

総入館者数 1,860人(一日平均:56人)

関連事業

初心者向け展示解説「日本画鑑賞はじめの一步」

【開催日】2月11日(火・祝)

石版画ワークショップ「石版画の仕組みを体験してみよう！」

【開催日】2月15日(土)

「手話付き展示解説」

【開催日】2月23日(日)

「鎌倉文化ゾーン 小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】令和6年4月27日(土)～令和7年3月31日(月)

関連記事

「神奈川・鎌倉 企画展 物語を描く ～清方を魅了したヒロインたち～」(月刊美術 No.593)

「物語を描く ～清方を魅了したヒロインたち」(鎌倉朝日 2月1日号)

「企画展「物語を描く ～清方を魅了したヒロインたち～」(鎌倉 TODAY)

「企画展「物語を描く～清方を魅了したヒロインたち～」(美じょん新報 第303号)

他3件

出品作品

「一葉女史の墓」「深沙大王」「金色夜叉の絵看板」「先師の面影」「大蘇芳年」「鍾馗」「菊慈童」「曲亭馬琴」
「二人静」「註文帖」
下絵 「築地明石町」「たけくらべの美登利」「高野聖(今様絵詞の会)」「五人女のおまん」

樋口一葉著作口絵	「美登利像」(『たけくらべ』(復刻版))
尾崎紅葉著作口絵	『續金色夜叉』
泉鏡花著作口絵	『三枚續』『恋女房』(校正刷)『薄紅梅』 「芍薬の歌」(『現代長篇小説全集』口絵、口絵下絵)
柳川春葉著作口絵	『女一代』(下巻2点)(小夜子)(花枝)
渡邊霞亭著作口絵	『渦巻』(上編)(中編)(下編)
鈴木敏也著作口絵	『たけくらべ評釈』
『苦楽』表紙	「紅梅屋敷」「たけくらべ」「高野聖」「西鶴のお七」「高尾ざんげ」「田舎源氏」 「高野聖」(下絵)
『苦楽』巻頭色刷	「名作絵物語 金色夜叉」
『演芸画報』口絵	「對牛楼の旦開野」
『演芸倶楽部』口絵	「三ツ俣川の高尾」
『新演芸』口絵	「芝居美人画譜 六『つや物語』の丁山」
『新小説』口絵校正刷	「紅雪録」「瓔珞品」「胡蝶之曲」
『婦人倶楽部』附録	「鳴沢宮の像」
口絵原画	「高野聖(『現代名作集 別巻』)」「たけくらべ(『現代名作集』)」
絵葉書原画	「乳姉妹、天うつ浪、金色夜叉」「不如帰、魔風戀風、湯島詣」
その他挿絵	「探春」
資料	『にごりえ画譜』『樋口一葉全集』(扉)『鏡花全集』(表紙、見返し、扉) 尾崎紅葉肖像写真(『草もみぢ』口絵) 泉鏡花肖像写真(『泉鏡花作品集』口絵) 月に兔(帯留め・泉鏡花遺品)

企画展 「着物の美 ー清方美人の着こなしー」

美人画の大家である清方は、江戸から明治、大正、昭和時代初期の着物姿の女性を数多く描いた。季節を先取りした色合いや、重ね着の色の組み合わせ、伝統の文様など、洗練された着こなしは清方作品の見どころのひとつとなっている。

幼い頃から、日常そしてハレの日の装いまで、日々、女性の着物姿を見てきた清方。着こなしの美しさのみならず、帯を締めたる姿、日本髪特有の額や襟足、うなじなど、和装ならではの美は、彼の心を捉え続けた。清方が作品に描いた着物の美は、時代を超え、着物が縁遠くなってしまった現代の私たちに新鮮な感動を伝えてくれる。

本企画展では、清方が愛した着物の美を、意匠を手がけた着物と着物姿の女性を描いた作品や挿絵で紹介した。



会期 令和7年3月1日(土)～4月13日(日)

(開館日数:38日)

総入館者数 2,394人(一日平均:63人)

関連事業

5+1館の学芸員によるトークセッション「鎌倉と女性」

【開催日】3月1日(土)

「春休み親子鑑賞」

【開催期間】3月26日(水)～4月4日(金)

小・中学生及び同伴者観覧無料、小・中学生対象解説書配布

木版画ワークショップ「浮世絵の多色摺り技法を体験してみよう！」

【開催日】4月3日(木)、5日(土)

「鎌倉文化ゾーン 小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】令和6年4月27日(土)～令和7年3月31日(月)

関連記事

「着物の美」(鎌倉朝日 3月1日)

「企画展「着物の美 ～清方美人の着こなし～」(鎌倉観光公式ガイド)

「企画展「着物の美 ～清方美人の着こなし～」(鎌倉 TODAY)

「企画展「着物の美 ～清方美人の着こなし～」(子どもとお出かけ情報サイト「いこーよ」)

「着物の美 ー清方美人の着こなし」(広報かまくら3月号)

出品作品

「清方筆 扇面描繪黒留袖」「清方筆 紅梅模様描繪打掛」「嫁ぐ人」「早春」「しだれ桜」「笠の曲(娘道成寺)」「寫生」「五十鈴川」「浅みどり」「牡丹(一)」「牡丹(二)」「描繪扇子」3点

下絵 「客間」

スケッチ 「嫁入り」「《早春》のためのスケッチ」「蕨」「次女」「次女」「女性」「沈丁花」「こごめざくら・どうだん・梨の花」

『文芸倶楽部』口絵 「緋桃」「爪紅」「雛壇の下」「そゞろあるき」「鸚鵡」
『新小説』口絵 「虎の門 見立十二姿の内」「瑞香(百花百姿)」
『講談雑誌』口絵 「浮いて鷗の(清方畫譜の三)」「光のどけき(清方畫譜の四)」
『清方美人画譜』 「白壁」「幕間」「午後の海」
『国民新聞』附録 「春装」
『淑女画報』口絵 「若葉の春」
『婦女界』口絵 「郊外生活」「虹」「李の花」
『婦人世界』口絵 「植物園の池」「星多き夜」「新夫人」
『婦人画報』口絵 「流るゝ水」「暗香」
『女学世界』口絵 「紅梅」
『苦楽』表紙 「湯の宿」「宇治の蜚」「王子詣」「ふた昔」「春雨」「無題(臨時増刊西鶴特集)」
『苦楽』表紙下絵 「湯の宿」「宇治の蜚」「王子詣」
広津柳浪著作口絵 『仇と仇』
小栗風葉著作口絵 『新かつら下地』
渡辺霞亭著作口絵 『勝鬨』(中編)
稲岡奴之助著作口絵 『三人書生』
書籍装丁 『長谷川時雨全集 第一巻』(表紙) 花柳章太郎著『きもの』(箱・見返し)
資料等 「清方意匠 紺木綿地鷲草模様浴衣地」
「紺木綿地鷲草模様浴衣地デザイン画」「黒地着物デザイン画」
「紅梅模様描繪打掛意匠画」
「紙入れ・笥迫(4点)」「(清方旧蔵)」
『婦人画報』掲載鏑木清方記事